

2012年12月10日

原子力委員会殿

食のコミュニケーション円卓会議

代表 市川まりこ

今後の原子力研究開発の在り方について（見解案）への意見

意見 1

5. 放射線利用について

①、安全性の評価を進め について

WHO や FDA、EU-SCF(欧州食品科学委員会)などで繰り返し科学的データに基づいて国際的に確認されている照射食品の安全性を、遅まきながら日本でも再確認するような「安全性の評価」だけではなく、食品全体の安全確保に向けた「照射による殺菌効果」などの継続的な研究に取り組むべきだと考える。

②消費者との相互理解活動 について

食品照射は、日本においては新しいものではないが、リスクコミュニケーションという視点で過去を振りかえってみると、ほとんど行われていない。これから先、取り組まれる消費者との相互理解活動が、広く市民に受け入れられ、より前向きな議論を生み出すために必要な、新しいかたちの食品照射のリスクコミュニケーションの取り組みが、「食のコミュニケーション円卓会議」HP: <http://food-entaku.org> において、既に始まっている事をお知らせしたい。

③、滅菌技術 について

滅菌と殺菌を特に区別しないのであれば、誤解を招かないよう「殺菌・滅菌技術」などとすべき。また、食品照射には、ジャガイモの芽止めや食中毒防止のための殺菌技術としての利用の他にも、植物防疫上の検疫殺虫処理における化学薬剤の代替などの重要な応用があり、世界的に利用が急拡大している。あたかも食品への放射線利用が芽止めや滅菌処理だけであるような誤解を生まないように、具体例を追記すべき。

意見 2 :

社会が新しい技術を受け入れるには、リスクコミュニケーション活動が欠かせないと言われているが、放射線利用においても、そのリスクコミュニケーションに難渋しているのが現状だ。原子力発電とは直接には関連しない「放射線利用のリスクコミュニケーション研究」が必要である。今回の「見解案」は、いまだに原子力発電やエネルギー分野に偏り過ぎているため、ぜひ「放射線利用のリスクコミュニケーション研究」を独立した課題として取り上げて欲しい。